

こうほう ショッキング

Vol.69

Kōhō shocking



ふな はし ひとし
舟橋 仁さん

●プロフィール

33歳。豊玉町仁位出身、在住。熊本の大学を卒業後、看板などを製作するサインメーカーに就職。福岡勤務のち東京へ転勤、長く交際中だった奥様と結婚。29歳の時仕事を辞め、奥様と一緒に8ヶ月間の世界一周の旅へ。平成24年9月より一般社団法人対馬観光物産協会に勤務。現在、観光誘客チームサブリーター。実家で両親と奥様、1歳の長男との5人暮らし。

○しかしまた世界一周旅行とは思い切られましたね。

そうですね(笑)。東京勤務になった頃から、世界一周する計画を立てていました。ポリビアにウユニ塩湖というのがありますが、四国の半分くらいの広さで、乾季は一面の塩の平野なんです。雨季になるとそこに水が張って鏡張りになるんですけどもきれいなその湖の写真を撮って、行ってみたいと思ったのが世界一周のきっかけでした。タイから東南アジアを数ヶ国巡ったのちアメリカ、メキシコ、南米を数ヶ国。ウユニ塩湖に行く目的を達成したので帰国しても良かったんですが、目指せ世界一周!!ということで強引にヨーロッパへ渡り、最後は韓国から船で対馬へ帰国しました。一生に一度の人生だから、悔いのないようにならなくて。海外での長旅は面倒だ、と初めはしづぶだった妻でしたが、最終的には彼女の方が楽しんでいましたね。

○旅に出て思ったこと、感じたことはありますか？

都会の生活も大好きでしたが、やはりどちらかというと自然の多い場所の方が好きだったんだと思います。南米のパタゴニアは広野と山だけ。こんなところに人が住んでいるのか?と思うような場所でした。でも、何も

ないけれど都会よりも楽しかったんです。帰国した時は春。対馬の新緑と桜を迎えられて、あ対馬はいいなあと素直に感じました。いろんな場所を見てきたから、先入観なく対馬を見れたんだと思います。

○学生時代と現在では対馬の見え方が違いますか？

学生時代、両親がよく島内をドライブに連れて行ってくれたりして、もともと対馬が好きで良さも分かっていたつもりでした。でも、今の仕事を始めて、知らなかったことがたくさんあることに気づかされました。歴史に関してまったくと言ってよいほど知識がありませんでしたから、田舎の島だと思っていた対馬が、実は日本の歴史上重要な役割を担っていたことを知り、山登りもしたことがなかったことで、白嶽の頂上がある絶景だったことに驚きました。今では僕の一番好きな風景です。

○対馬には何も無い、なんて残念な声が聞こえる時もありますか？

そうですね、対馬の良さが分からないまま島外に出て「対馬には何も無い」と言っちゃうのって、とても残念。島外に出ることは悪いことじゃないし、出てみないと分からないことも

たくさんあります。僕も、上京したり旅に出たりしなかったら対馬には帰ってこなかったと思います。市民全員が対馬の良さを知ったら、島外に出ても対馬の良いたるところが言えて、かなりのPRになりますよね。出て行く人みんなが観光大使、市民総ガイド化計画、みたいなことをやるうと職場のみんなでもいつも話すんです。今年も対馬講座や島内イベントを計画しているのでも、ぜひご参加ください。僕も皆さんと一緒に勉強したいと思っています。

○新年にあたり、抱負などありますか？

僕は写真を撮るのが好きなので、今年は、対馬に住む人にか撮れない、偶然出会う風景を撮影し、発信していきたいですね。僕がウユニ塩湖の写真を見て旅を決意したように、僕の写真を見て対馬へ来てもらったら最高ですね。皆さんには、生まれ育った対馬が世界に誇るべき島だということをもっともっと知っていただきたいです。偉そうではないです(笑)。

毎回、登場してくださった方、次の方を、ご紹介いただきこのコーナー。次回は厳原町西里にお住まいの長瀬美三子さんです。お楽しみに。